

千葉県八千代市

笛塚塚群（1号塚）

－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

令和4年度

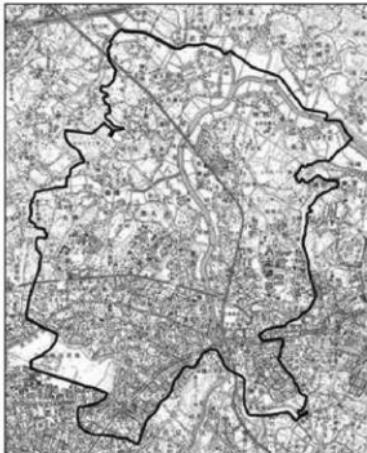
株式会社 中央住宅
八千代市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、八千代市教育委員会が令和4年度民間開発等埋蔵文化財発掘調査事業として実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。報告書作成業は、令和4年度事業として行った。
- 2 本書に収録した発掘調査は宅地造成に伴うもので、事業者である株式会社中央住宅の委託を受けて実施した。
- 3 遺跡名は、篠塚塚群、所在地は八千代市大和田766-1ほかである。
- 4 調査及び整理は、以下のとおり実施した。
本調査　期間 令和4年10月4日～令和4年10月31日 塚1基 面積780m²
本整理　期間 令和4年11月1日～令和5年3月31日
- 5 参考文献は第Ⅲ章末にある。
- 6 写真・図版等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。
- 7 本書の図版作成は、伊藤衣莉加が行い、編集・執筆は宮澤久史が担当した。



八千代市の位置



篠塚塚群の位置

目 次

I 調査経過及び概要.....	1
① 調査に至る経緯.....	1
② 調査の概要.....	1
③ 筒塚塚群の概要.....	1
II 検出された遺構と遺物.....	3
III 成果と課題.....	4
写真図版	

挿 図 目 次

図 1 筒塚塚群（1号塚）位置図.....	2
図 2 筒塚塚群 1号塚平面図.....	3
図 3 筒塚塚群 1号塚土層断面図等.....	5

図 版 目 次

図版 1 調査前現況	
図版 2 土層断面	
図版 3 完掘状況及び調査風景	

I 調査経過及び概要

①調査に至る経緯

令和3年12月16日付、事業者である株式会社中央住宅代表取締役品川典久から八千代市大和田新田の宅地造成に係る「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の依頼が提出された。確認地は、周知の遺跡である篠塚塚群の範囲内であり、現況は山林であった。遺物の散布は確認できなかつたが、篠塚塚群の一部が所在していることが確認できた。このため、八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）は周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、「文化財保護法（以下「法」という。）第93条に基づく届出が必要であること」と、「その取扱いについて協議したい」旨をそれぞれ回答し、合計780m²について取扱いに係る協議を行つた。同年12月16日付けで株式会社中央住宅から土木工事の届出が提出され、市教委は令和4年10月4日に本調査を実施した。

本調査 協議範囲780m²について、本調査実施に向けて協議を重ねた。市教委は令和4年9月1日付で調査の見積もりを事業者に提示し、事業者からも同年9月12日付で八千代市長（以下「市」という。）に調査依頼書が提出された。市は9月12日付でこれを受託し、9月15日付で市・事業者の両者間で埋蔵文化財発掘調査の委託契約を締結し、10月4日に市教委が本調査を開始した。

②調査の経過

本調査は塚1基780m²を対象として行われた。樹木伐採・現況地形測量を行つた後、発掘調査を開始した。掘削作業は重機による掘削を行い、適宜写真撮影と図面作成、トータルステーションによって記録をとりながら完掘を目指した。

調査経過は10月4日機材搬入、環境整理、調査前状況写真撮影。4日～6日地形測量。5日～31日調査、31日機材撤収で調査を終了した。

③篠塚塚群の概要

遺跡の立地 篠塚塚群は市域西部に所在する。桑納川を北に臨む台地上で、標高約29mに立地する。北側を花輪谷津に、南側を津金谷津によって区切られた舌状台地の基部に位置する。（註1）

これまでの調査 篠塚塚群は平成27年に調査が行われ、平成28年に報告書「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成28年度」が刊行されている（a地点）。この際の調査では遺構は検出されなかつたが、縄文土器片が検出されている。本調査例を1号塚としたが、他に現状で視認できる塚は確認できていない。

周辺の遺跡 本塚群の北方には尾崎群集塚が展開している。本塚群の西方、花輪谷津に面した台地縁辺部に大和田新田芝山遺跡が展開している。（財）千葉県文化財センターによって縄文時代の陥穴が多数調査されている。本塚群北方の台地中央部から先端部にかけては平作遺跡が展開し、縄文時代中期の竪穴住居を検出している。北東方向には調査例はまだないが、吉橋芝山遺跡が展開している。また、南側の津金谷津を超えた台地には長兵衛野南遺跡が所在し縄文時代中期の竪穴住居を調査している。北側の花輪谷津を超えた台地には内野遺跡が展開している。

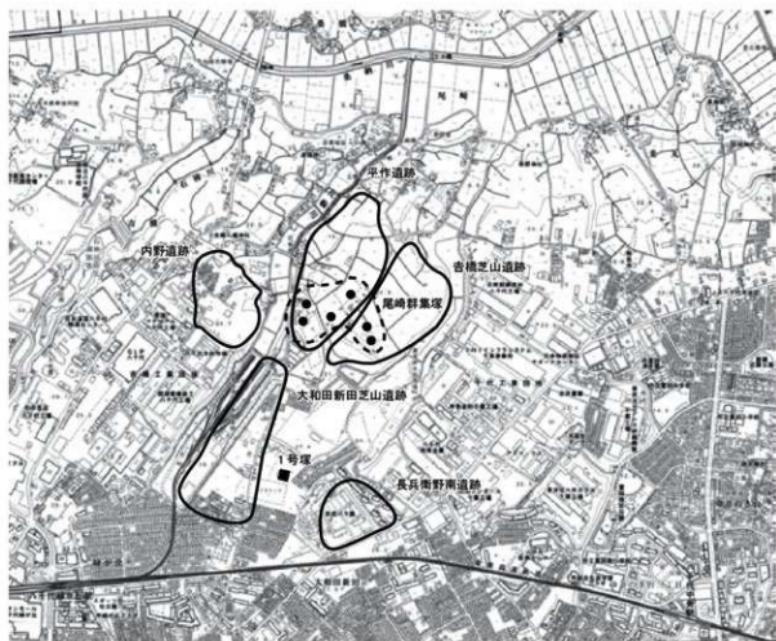


図1 笠塚塚群（1号墳）位置図

II 検出された遺構と遺物

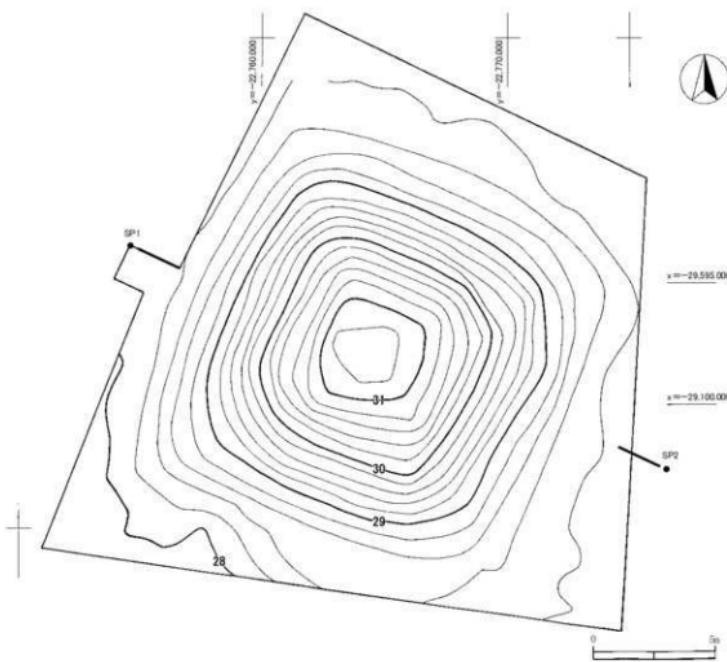


図2 笹塚塚群1号塚平面図

形態・規模 調査前の現況では樹木が密集していて形状が判りにくかったが、樹木伐採後の状況から方形の塚である事が明らかになった。また、塚に上るためのコンクリートブロックによる簡易な階段も検出された。塚の測量結果、 $18m \times 18m$ 、高さ3.6mの方形の塚であった。墳頂部は $4m \times 4m$ の方形の平場が作られていた。周溝・主体部等は検出されなかった。

土層観察状況等 暗褐色土とロームを主体とした黄褐色土を主体とし、相互に積み重ね塚を形成していたことが明らかになった。塚封土最下層には白色粘土が張られていた。塚を形成する際に整地をするためと考えられる。

付属施設等 主体部・周溝等の付属施設は検出されなかったが、白色粘土上面にうっすらとした焼土を検出した。何らかの儀礼によるものなのか、塚構築時の作業中の焚火等によるものなのかは判然としなかった。

遺物 遺物は出土しなかった。

III 成果と課題

調査の結果、 $18m \times 18m$ 、高さ $3.6m$ の方形の塚であった。市内の類似例としては村上供養塚などが挙げられる。遺物が出土しなかったため明確な時期特定はできなかったが、市内の他の類例、覆土の観察等から近世の塚と判断される。用途についても出土遺物が無いため、不明と言わざるを得ない。

塚の土層断面から特徴的な構築方法を知ることができた。まづ、塚最下層を整地し白色粘土を貼って整地面を作る。その後、暗褐色土を主体とした層（b）とロームを主体とした層（a）を交互に積み重ね塚を積み上げてゆく。ある程度の規模の塚が形成された時点で、いったん積み上げをやめ、形成された塚を軸にして、さらに暗褐色土系の土で高さ、規模を拡大して現状の塚を構築したようである。

市内には多数、塚が所在し、45基を数える。（註2）今回の調査では出土遺物、附属する遺構の検出が無かったため、不明な点が多かったが、今後、塚の調査例を蓄積し、さらなる考察ができるようにしたい。

註1 本書で呼称している谷津名等は、八千代市教育委員会『千葉県八千代市 墓内遺跡b地点』（2009）に依っている。

註2 八千代市教育委員会『千葉県八千代市 木戸前塚』（2011）による。

参考文献

- 財團法人千葉県文化財センター『八千代市仲ノ台遺跡・芝山遺跡』（1989）
- 八千代市遺跡調査会『千葉県八千代市 長兵衛野南遺跡発掘調査報告書』（2000）
- 八千代市教育委員会『千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 平成26年度』（2015）
- 八千代市教育委員会『千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 平成28年度』（2017）
- 八千代市教育委員会『千葉県八千代市 村上供養塚発掘調査報告書』（1974）

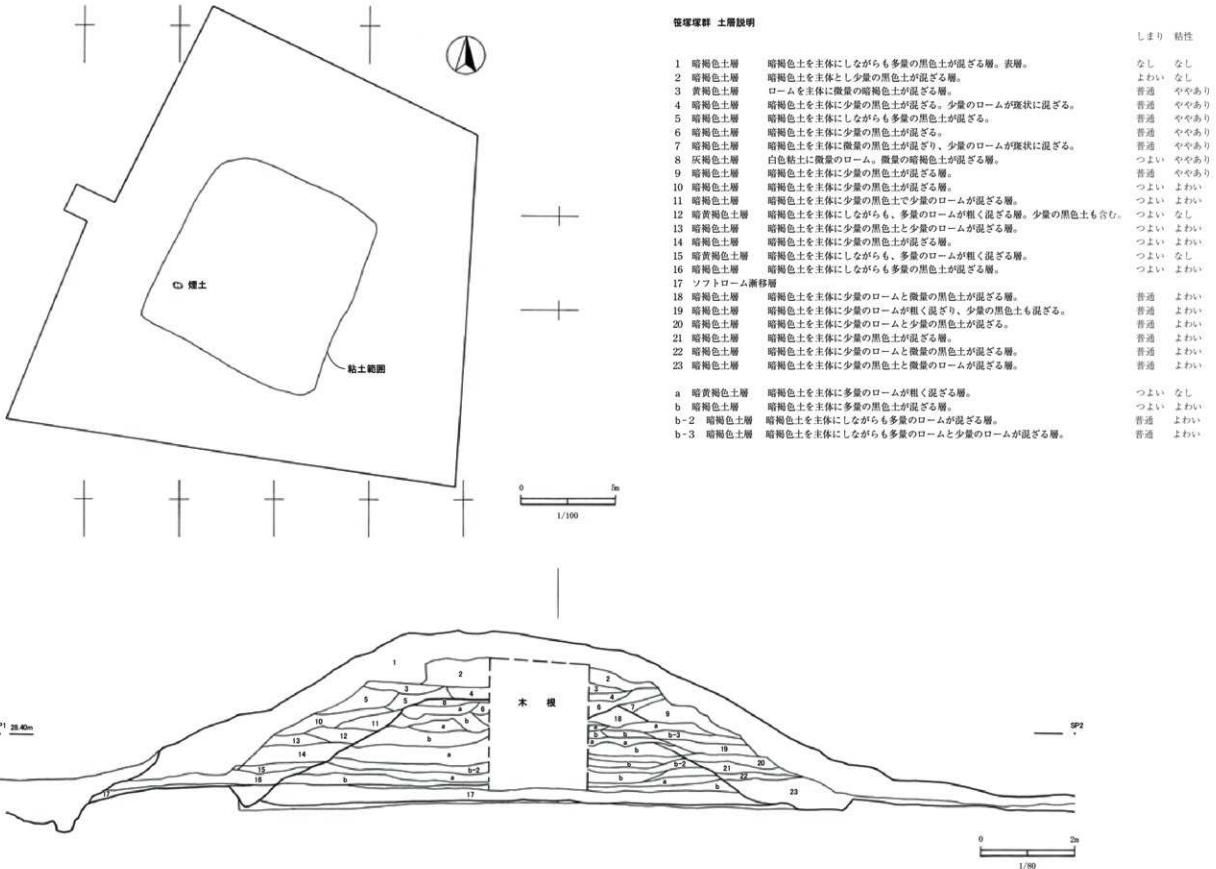


図3 黒塚群土層断面図等



調査前現況



調査前現況

図版2



土層断面



土層断面



完掘状況



調査風景



調査風景



調査風景



調査風景



調査風景



調査風景

報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし ささづかつかぐん (いちごうつか)							
書名	千葉県八千代市 笹塚塚群							
編集者名	宮澤 久史							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138番地2 TEL047(483)1151							
発行年月日	令和5年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
笹塚塚群	大和田新田766-1	12221	161	35度 73分 29秒	140度 08分 51秒	2022/04/04 ～ 2022/03/31	780	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
笹塚塚群	塚	中・近世	塚1基			なし		
要 約	中～近世 塚1基。18m×18mの方形塚。高さ3.6m。							

千葉県八千代市 笹塚塚群（1号塚）

一宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

発 行 日 令和5年3月31日

編 集 八千代市教育委員会 文化・スポーツ課
〒276-0045 八千代市大和田138-2
TEL 047-481-0304

発 行 株式会社 中央住宅

印 刷 金子印刷企画
千葉県八千代市壹田410-1

